

T T A K

6月15日号
地域連携室発行

退院後も つなぎます あなたの ことごとからだ

6月に入って、また、うっとうしい梅雨の時期がやってきました。皆様いかがお過ごしですか？
今月のTTAK新聞も、そんなうっとうしい梅雨空も吹き飛ばしてくれるような、元気で頼もしい内容です！
第5病棟の岡村美智子看護師が、本年度2月17日に名古屋国際会議場で行われました『第20回日本静脈経腸栄養学会』において「嚥下摂取障害のクリティカルパスの作成にあたって」の演題名で発表されました。

第5病棟 岡村美智子看護師 学会で発表！



発表者に聞く！



このたびはお疲れ様でした。

Q：今回発表された学会とはどのような学会ですか？

A：臨床栄養にかかわる、医師・看護師・栄養士・薬剤師・メーカーなどが参加して、年に1回行われる学会です。

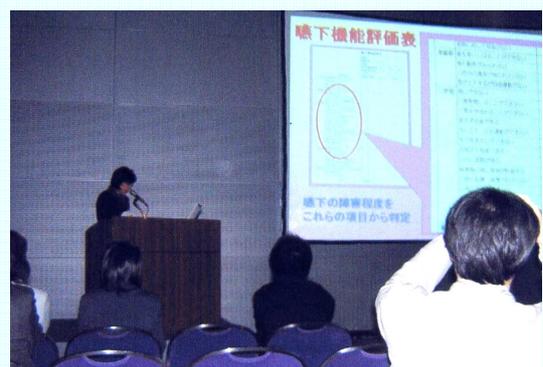
Q：なぜ発表しようと思いましたか？

A：当院でのNST活動を行う中で、摂食嚥下障害の患者様へ統一した評価とケアの提供が必要だと感じたため、クリティカルパスの作成を行いました。

特に高次脳機能障害患者さんが多く見られることで、その方々に対しても対応できる当院独自のパスを作成した事で今後の評価につながると思い、発表しようと思いました。

Q：岡村さんはNST（Nutrition Support Team）の設立当時からの中心的なメンバーで、あちらこちらの勉強会にも参加されて、自主的に勉強を重ねてこられたと聞いています。今回の発表の内容を一言で言うと？

A：当院でのNST活動の中で作成した、摂食嚥下障害患者に対するクリティカルパスについて、特に、高次脳機能障害患者に対して工夫した事を含めて発表しました。



Q： 発表を終えて、感想はいかがですか？

A： すごく緊張しましたが、発表後にも数名の方から「パスを参考にしたい」と言ってもらえた事がとても嬉しかったです。

Q： ついに播磨病院のコメディカルも、全国規模の学会で発表する時代になったわけですね。編集者も学会に同行させていただきましたが、当日は会場内外で多くの質問を受け、大反響でしたね。また、相生に戻ってからも、発表したパスを見せてほしいという問い合わせもあったと聞いています。今後の抱負などをお願いします。

A： 発表した内容を今後活かせるようにしていきたいと思います。まだまだ改善の余地もあると思うので、もっと良いものにしていきたいと思います。



Q： それから、岡村さん、次の計画をお話下さい。

A： ええ～っ！！



Q： 恥ずかしがっておられますが、実は岡村さんは、発表内容もとに論文を作成中です。

A： ……作成中というほどまだ進んでいませんが……

Q： 忙しい日々の業務の中で、大変だとは思いますが、TTAKあるいはホームページ改定委員会など複数部門からもお願いしていることです。反響が大きかったですから、是非とも頑張って完成していただきたいです。クリティカルパスをホームページからダウンロードできるようにしようとも考えていますので、論文の中でその事にも触れて頂ければ播磨病院のホームページのアクセスも全国からくるかも……と思っています。

A： 論文なんて書いたことがないので……でもチャレンジしてみます！！

Q： すばらしい決意ですね。岡村さん、頑張ってくださいね。ありがとうございました。

A： ありがとうございました。

いかがでしたか？

**とっても頼もしい岡村氏です。
今後の活躍にも期待いたします！！**

だんだんと暑い夏に近づいていきます。

皆さん、体調管理を万全に

ジメジメした梅雨を

乗り切りましょう！！



**次回のTTAK新聞は…
事務の加藤さんの
システムアドミニストレーター
について、です。
お・た・の・し・み・に！**